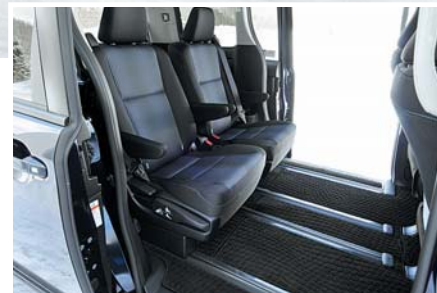




兄弟車を



トヨタの売れ筋ミニバン TOYOTA VOXY

新しいフロントマスクは、見えて直線的なラインを際立たせた印象が強い。特に、エッジの効いたデザインのカーの奥に収まるLEDヘッドランプと、その上向いたLEDを採用したスタイリッシュなクリアランスランプを配した部分に新味がある。今回試乗に提供された車種は、ほかよりもメッキパーツを多く取り入れ、フロントフェンダーが幾分張り出していることも多い。一段とクラマラスな仕上がりとなっている。

一方、新型ノアは、LEDランプを埋め込んだフロントライトは、先代モデル譲りのため、同じ大きさで、カバーの形状がゆるやかな曲線を描いていることも多い。二層製品を感じるデザインへと昇華した。同時に、メッキを多様化したグリルがコーシヤスな印象を与え、女性的な優雅さを増したようにも感じられる。

インテリアについては、グレードによってカラーリングの選択肢が多少異なるものの、質感に向上が見られる。アブリックシートなどのものは、同様の空間デザインやインパネ周辺のデザインも同じで、エレクトロニクス系機能を凝縮させた操作パネルは、使い勝手がよく、また見た目も実にスッキリとまとまっている。ともに、全長で100mm程度、全幅で若干拡大されたことから、スペースに余裕が生まれていることは、着座するや実感できる。とりわけ、これまではお世辞にも快適とは言え難かった、列目シートの居住性が、大幅に改善されている。

■新されたフロントマスク

を締めるそのような傾向にあると言っているのではない。ところが、今回試乗に与えられたデザインもまた、これまでの一般的なイメージを踏襲したもの。新型ヴォクシーはより先鋭的に、ノアはよりエレガントに、それぞれの立ち位置をハッキリと打ち出している。これである。この二つは、まさにヴォクシーから順に検証して、い。



乗り比べ!!

■テキスト=青柳 健司(フォトライター) ■Photo=川村 聡(11村写真事務所)
■取材協力=トヨタカローラ札幌 西店 ☎(011)662-6151
ネットトヨタ札幌 中央店 ☎(011)731-9111



勇躍してそろい踏み TOYOTA NOAH

プロフィール

■進化への期待感

充実したラインナップを誇るトヨタのミニバン系の中で、ヴォクシーとノアは兄弟車種。あるいは姉妹車種として、同様の機能と性能を有していることは周知の通り。そして2001年の登場以来、ビタリと歩調を合わせた進化をたどりながら、ほぼルックスのみの違いによって、それぞれ独自のユーザー層を獲得して来た。そして先頃市場投入された3代目に当たるニューモデルもまた、仲良しく同日に販売がスタート。ただ今回は、多くのユーザーが待ち望んだハイブリットシステム搭載車が、ついに配備されるとの事前情報が流れたことも手伝って、トヨタファンはもう一つの、すでに各方面に多くのトピックを提供している状況となっている。

果たしてその変わり種はどのようなものか？ 普段は車種毎のリポートを常として、このコーナーの特別バージョンとして、両車種同時の試乗インプレッションを拡大枠で試みることにした。

■立ち位置が明確に

シャープなルックスをまとった比較的年層のファミリーを意識しているのを見て取れるのがヴォクシー。対してノアは、マイルドなデザインが印象に残ることから、落ち着いたファミリー向けというのがこれまでの一般的な受け止め方であろう。当然ながら、こちらがより好ましく感じられるか、もしくはこちらがよりライフスタイルに合ったデザインと捉えるかは、ユーザーの自由裁量であるが、エアロパーツなどでドレスアップを図りたい向きは、ヴォクシーを選択し、ノアはノーマル派が多数



主要諸元: (ZS 4WD)	
●全長×全幅×全高	4710×1730×1870mm
●ホイールベース	2850mm
●トレッド/前:1500mm 後:1480mm	
●車両重量	2065kg
●最小回転半径	5.5m
●エンジン型式	1986cc 直4 DOHC
●最高出力	152ps/6100rpm
●最大トルク(エンジン)	19.7kg・m/3800rpm
●JC08モード燃費	14.8km/ℓ
●ミッション/自動無段変速機/7速スポートシフト	シフトマチック付
●ブレーキ/前:Vディスク 後:ディスク	
●タイヤサイズ	205/60R16
●駆動方式	4WD
●乗車定員	7名
●車両本体価格(札幌地区)	2,937,805円(消費税込)



「軽いタッチでありながら、安定したハンドリングにより、混雑する街路での操舵にストレスを感じるような場面はまずない。回転半径は5.5mで、先代よりサイズアップとなった車体を駐車場などの狭い場所でも切り回すにはそれなりの慣れを要するが、たとえ非力な女性であっても必要以上の手間取を必要としないだろう。アイドリングストップ機能(駐車時には搭載されない)により、停車から発進の度にエンジンに点火されることになるが、点火音は非常にナチュラルである。走行時の静粛性においてもケチのつけようはなく、幼児の健やかな眠りを妨げる要素は

きわめて少ないと言える。

続いて筆者は、きついカーブのある登坂道に乗り入れて検証することとした。

まずはストレートの山頂に配備は、低回転域から発生するトルクが車体をしっかりと引っ張り、もたつくことなく登頂することが可能。カーブでのローリングについては、高速で無理矢理な旋回をしない限りにおいては、感じるような場面は稀だ。そのあたりは、低床化の恩恵のひとつと言えのかもしれない。

どちらとも4WD車であるがゆえに、雪深い登坂道の登り下りに際して不安を感じることがあるシーンが非常に少なく、雪道の運転に慣れているドライバー

ディーラーメッセージ

ネットヨタ札幌 中央店
営業スタッフ

田辺 秀嗣さん

現行ヴォクシーと比べてみると、ステップがなくなったことが一目でお分かりいただけると思います。これによって、お子様やお年寄りの方も、乗り降りが格段にしやすくなりました。燃費も向上していますので、ご家族向けにどんどんアピールさせていただきたいですね。試乗された女性の方々からは「運転しやすくなった」というお褒めの言葉を多くいただいております。逆に、男性の皆さまは、「加速がよくなった」とおっしゃられます。新しいヴォクシーは、安心して楽しくドライブできる仕上がりになっていると思います。



主要諸元: (Si 4WD)	
●全長×全幅×全高	4710×1730×1870mm
●ホイールベース	2850mm
●トレッド/前:1500mm 後:1480mm	
●車両重量	2065kg
●最小回転半径	5.5m
●エンジン型式	1986cc 直4 DOHC
●最高出力	152ps/6100rpm
●最大トルク(エンジン)	19.7kg・m/3800rpm
●JC08モード燃費	14.8km/ℓ
●ミッション/自動無段変速機/7速スポートシフト	シフトマチック付
●ブレーキ/前:Vディスク 後:ディスク	
●タイヤサイズ	205/60R16
●駆動方式	4WD
●乗車定員	7名
●車両本体価格(札幌地区)	2,937,805円(消費税込)



■低床化がもたらすもの

さて今回のモデルチェンジの目玉のひとつは、低床化を図ったことにある。床面を実85mmまで、子供や高齢者の乗り降りの負担を軽減する、などを目指した。実際に、後部座席にはワンステップで楽々と乗り込め、その恩恵を十分に感じることが出来る。また、荷室スペースの大型の荷物や重量ある荷物の積み降ろしが非常にイージー。低床化は間違いない大正解である。

ディーラーメッセージ

トヨタカローラ札幌 西支店
スタッフリーダー

安田 博行さん

現行ノアは大人しいイメージが好評でしたが、今回はスタイリッシュなデザインに生まれ変わり、さらにご注目いただいております。これまで以上に前方視界がよくなった点や、ワンタッチで開閉するスライドドアや、乗り降りしやすくなった点もアピールポイントです。試乗されたお客さまの中には「ロールが抑えられたね」とおっしゃる方もいらっしゃいました。性能面も向上していることを、実感していただけたと思います。



行き届いている。

■性能も充実

グレード構成も共通で、2種のハイブリッド車、大型バンパーやリアスポイラーなどを装着した1車種(ノア)は、ZSノアはSノア。そのほか装備に応じて3種を設定し、ハイブリッド車以外は7人乗りと8人乗り(ハイブリッド車は7人乗りのみ)があり、そのいずれもF車と4WD車が配備されている。注目のハイブリッドシステム搭載車が取材時にはまだ発売されていなかったこともあり、今回試乗に提供されたのはノーマルエンジンバージョンでは最上級となるZSとSだ。どちらも7人乗りの車種で、2列目のスペースが横にたぐり広がり、また車体のセンター方向へシートをスライドすることが可能。もちろん、列目のシートは左右にスッカリと収容されるので、用途に応じた多彩なレイアウトが可能だ。

パワーユニットは最大出力152ps/6000rpm、最大トルク19.7kgm/3800rpm。能力としては十分な数値。燃費はJC08モード14.8km/L(F車は16.0km/L)と、先代モデルからの改善を実現した。ちなみに、ハイブリッド車の場合は23.8km/Lとのクラスとしては驚くべきデータを掲げている。なお、基本として性能・機能・装備は同じであるから、事項のインプレッションは両車共通のものとして理解してもらいたい。

インプレッション

■ドライブする楽しさ

ドライブングシートからの視野が広く、なんとも言えない安心感に包まれながらアクセルを踏み込むと、実にクイックな挙動を示しながら発進。パ

イパーもつなぐ走行をさせているのは想像に難くない。ハイブリッド車はFのみの設定となることを考え合わせる、厳寒の北海道においては、経済性よりも走行性重視で4WD車を選択するユーザーが増えるのではなかとも感じられた。もちろんアクティブトルクコントロール機能により、滑りやすい路面では適切な駆動力が維持されるので、ハイブリッド滑るといったステレオタイプ的な認識は捨てよう。

それはともかく、通常のDレンジに加え、マニュアル感覚でギアチェンジが楽しめる「速スポート」シケンシャルシャフトを採用している点は、運転好きには堪えられない魅力である。先代モデルにも採用されて好評を博していたが、2速からの加速はなかなかの悦楽で、シフト操作の楽しさを再認識させてくれる。その際、車内に響くエンジンノートは、静粛性の高い車体であるがゆえにスポーツカー並みとまではならないものの、上々の迫力があることも付け加えておきたい。

総括としては、様々な路面状況でしっかりと走行性を保っていることが、安定したハンドリングからダイレクトに伝わり、車体サイズから想像する以上の完成度の高い走りを提供してくれる。それが新ヴォクシーとノアのポテンシャルであると結論づけたい。

■ライフスタイルに応じて

ハイブリッドバージョンへの期待値は上がる方であろうと思われるが、実際にドライブしてみるとノーマルエンジン車の魅力も捨て難い。ユーザーとしては、どちらかを選択すべきが多いに悩ましいところではある。ヴォクシーについては、今春にはハイブリッド車も試乗用に配備される見通しとなっている。取材時において、アの方は配備未定だったが、まずは乗り比べてみるのが重くある。それは同時に、ユーザー自身と愛する家族のライフスタイルを見つめ直す、格好の機会ともなるに違いない。